

## 自動で熱負荷計算書を作成するRPA<sup>※</sup> 「オートメーション・エニウェア」を業界初導入！

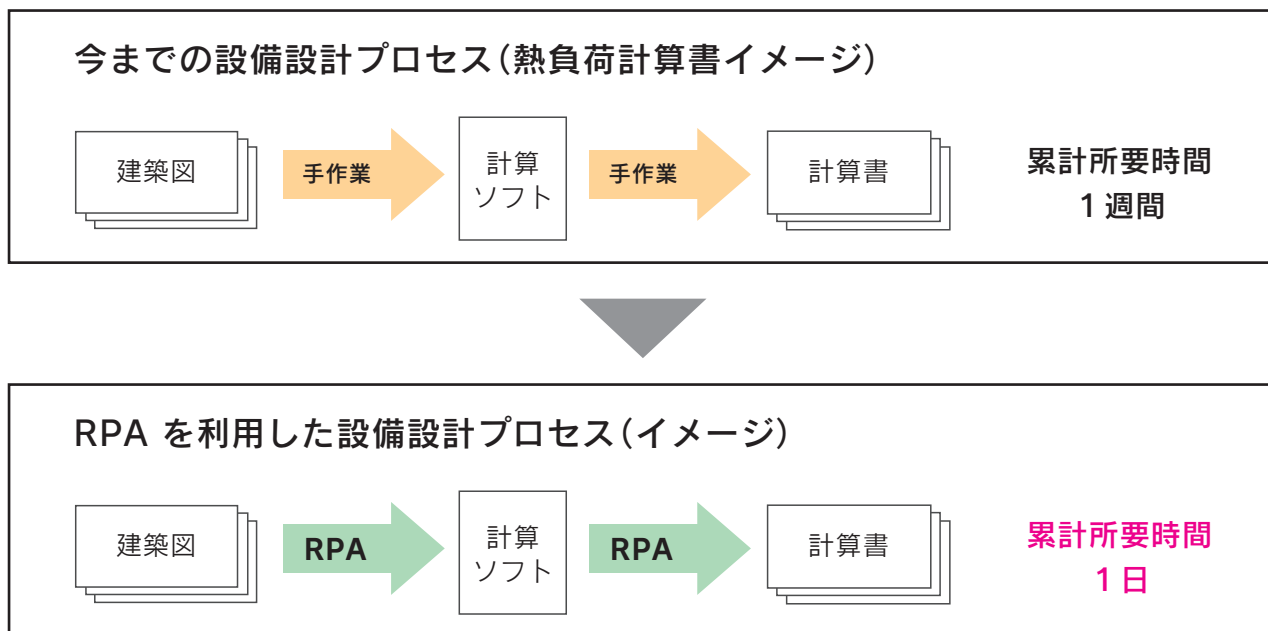
※RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)とは、ソフトウェアロボットを用いた事業プロセス自動化技術のことです。今までは建築図から設備設計者が手動で数字を拾いエクセル計算式に入力していたものを、今回のRPAを用いることで、BIMから自動的に計算書へ入力できるようになり、大幅な効率化・省力化が図れます。

株式会社梓設計(本社:東京都大田区、社長:杉谷文彦)は、このほど、コンピューターショナルデザインへの取り組みの一環として、米国Automation Anywhere, Inc.のサーバー型RPA「オートメーション・エニウェア」を設計プロセスに導入(業界初)し、設計業務の更なる効率化・省力化・コンカレント化に着手しました。

### 自動で計算書を作成するRPAにより、1週間要する作業を1日に短縮！

従来の設計プロセスでは、「BIM」と「エンジニアリング部門が扱う設計計算ソフト」は各々独立して運用していました。建築図から必要情報を読み解き、計算書へ入力・作成するために多くの労力と時間を要します。BIM構築が可能となった今、BIMの情報からRPAを利用して計算書へ入力することで、「BIMを構築する」⇔「計算書が自動作成される」というシームレスな設計の流れを生み出せるようになります。多種多様なニーズに対応する際に、変更に伴う省エネ設計の検証やコスト検証等を、コンカレント化できる可能性に期待しています。

一つ目の取り組みとして、BIMから負荷計算に必要な情報を抽出し、設備設計者の与条件と合わせて、自動で負荷計算書を作成するRPAを開発しました。建物規模によりますが、従来の手法で1週間要する作業が、1日で作業完了するといった短縮化・省力化が図れます。今後も各種計算書への展開を検討しています。



当社は、より高度に複雑化していく建築や都市にスピーディに対応するために、DX時代にふさわしいベストなサービスを常に提供しつつ、お客様へのわかりやすい説明と確実な合意形成を図ってまいります。

ニュースリリースに記載している情報は、発表日現在のものです。ご覧になった時点で内容が変更になっている可能性がございますので、あらかじめご了承ください。ご不明な場合は、お問い合わせください。